

令和 6 年度 西東京市立保谷第二小学校 学校評価結果 [後期]

■学校教育目標	「自ら伸びる」 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
■目指す児童像	●地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校 ●生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校
■目指す学校像	●知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる」児童 ●他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童
■目指す教師像	●専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナル」の教師
■学校経営上の成果と課題	[成果] 西東京市研究奨励校として、コミュニティ・スクールへの円滑な移行を果たし、複合単元「市民科」におけるリアルな地域課題を通して、児童の「学び方」「考え方」の学びを進めた。 [課題] 地域拠点の役割を果たすため、2軸「花」「安全・安心」を一層推進する必要がある。そのため、後者に関して、保護者や地域住民も参画する、かつてない「避難所開設訓練」を実現する。

関連 教育 目標	中期 経営 目標	短期経営目標	具体的方策	質問内容(教…教職員 児…児童 保…保護者)			教員の結果(%)					児童の結果(%)			保護者の結果(%)				
							A	B	C	D	対象外	A	B	無回答	A	B	C	D	不明
よく 考える 児童の 育成	教育 効果の 向上	基礎・基本の完全習得	朝学習でのモジュール型短時間学習により、基礎・基本事項の習得を継続的に図る。 ● 漢字 ● 計算 ● タイピング	①	教	朝学習を有効に用いて、計画的に基礎・基本の定着を図りましたか。	57.1	21.4	0.0	0.0	21.5	92.5	7.5	0.0	27.3	47.0	21.9	3.8	0.0
					↑ 6.5		↓ 7.0		↑ 0.5	↓ 2.0	↑ 2.0	±0.0	↓ 4.2		↑ 4.8		↓ 0.6		
					児	漢字(1年生はひらがな)や計算が、ドリルやテストでできるようになりましたか。	[状況]	● 始業前 15 分間のモジュール型短時間学習が根付いて、基礎・基本の定着に欠かせない機会となりました。しかし、九九の定着に個人差があることが課題です。家庭との個別の連携を通して、具体的に対策を講じる必要があります											
		保	家庭学習の中で、お子さんは、漢字や計算の基礎・基本ができていますか。	[取組]	● 漢字と計算のドリルを、自動採点・集計が可能なものに切り替えたことで、定着状況を個別に把握でき、家庭学習の支援を図っています。今後、個別の課題を家庭と共有し、具体的なスケジュールで、基礎・基本の確立を進めます。														
		各教科等を横断させたカリキュラムマネジメントの実施 [横糸]	各教科等の指導内容を横断させ、教育効果を向上させる。 ● 言語活動の推進 ● 道徳科の充実 ● 複合単元「市民科」における単元開発	②	教	国語科の言語活動など、各教科等を横断した総合的な学びを進めましたか。	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3	93.4	6.6	0.0	26.0	48.0	22.3	3.1	0.6
					↑ 6.7		±0.0		↓ 6.7	↑ 2.6	↓ 2.6	±0.0	↓ 2.9		↑ 3.3		↓ 0.4		
					児	自分の考えを友達に話したり、友達の考えを参考にしたりできましたか。	[状況]	● 例えば第1学年の校内研究授業では、MUFG PARK や東大田無演習林の森林教育パートナーと連携して、地域の自然素材を活用した工作や遊びを進め、全ての児童が夢中になって、それぞれの個性を主体的・対話的に発揮した素晴らしい提案となりました。近隣の 100 名の園児を迎えた交流会に発展したことに、「教育のチカラ」を実感します。											
		保	お子さんは、コミュニケーションを通じて、考えを相手に伝えることができますか。	[取組]	● 学校目標「自ら伸びる」の具現化のため、各教科等で学んだことを自在に横断すること、コミュニケーションを通してさまざまな見方・考え方に触れ、自らの「納得解」にたどり着くことを重視した単元開発を、一層、進めます。														
		各教科等を縦断させたカリキュラムマネジメントの実施 [縦糸]	6年にわたる「課題改善カリキュラム」を進め、漢字や関数の系統的理解を促す。 ● 漢字の意味 ● 図や表の活用 ● 読解力向上	③	教	漢字や算数科の数量関係について、既習事項に基づく系統的な指導をしましたか。	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3	91.0	9.0	0.0	20.2	52.8	23.6	2.2	1.2
					↑ 6.7		±0.0		↓ 6.7	↓ 1.9	↑ 1.9	±0.0	↓ 0.4		↑ 0.5		↓ 0.1		
					児	これまでに学習してきたことを、新しい学習に生かすことはできましたか。	[状況]	● 系統的な学びを重視し、4つの特設カリキュラムを骨格とした、骨太の指導を図っています。しかし、タブレット型端末を駆使した問題解決が想定を超えて進み、「Canva」などのツールを介した思考・表現の高まりに可能性を感じます。											
		保	お子さんは、過去に学習したことを、新たな学習に自ら生かすことができますか。	[取組]	● 情報化が加速度的に進む現代だからこそ、「生きる力」の基盤づくりを地道に進めます。特に、「読解力」や「論理力」の向上のため、モジュール型短時間学習を活用し、図やグラフ、表などの「非連続型テキスト」の活用も進めます。														
	ギガ スク ール 構 想 の 具 現 化	個別最適化された学びの実現	文房具として日常的にタブレット端末の活用を進める。 ● 家庭学習との連携 ● ドローンの制御 ● 生成 AI の導入 ● 情報モラル	④	教	教材の電子化も念頭に、タブレット端末の日常的な活用を図りましたか。	50.0	35.7	14.3	0.0	0.0	90.4	9.6	0.0	32.8	46.4	15.5	3.4	1.9
					↓ 0.3		↑ 0.3		±0.0	↓ 0.7	↑ 0.7	±0.0	↑ 5.2		↓ 3.3		↓ 1.9		
					児	きまりを守ってタブレットを使い、知らないことを調べたり、考えを伝えたりしましたか。	[状況]	● 6年生の市民科「こども議会」では、租税の有効活用を探究し、①着眼点を広げる ②マニフェストをまとめる 活動で生成 AI を活用し、施策を市長に提言しました。全国的にも先進的な単元開発を通して、DX 化を推進しました。											
保			お子さんは、タブレット端末を、適切に学習活動に活用することができますか。	[取組]	● 発達段階に応じて、全児童が、ドローンを用いてプログラミング的思考を体験するとともに、6年生は、プロジェクションマッピング作品を展覧会で公開しました。新たな産業を見据え、新たに3D プリンターの導入を検討しています。														
自立した学びを支える「学び方の学び」「考え方の学び」を、各教科等に応じて進める。 ● 調べ方・まとめ方 ● 思考ツールの活用			⑤	教	書籍や辞書、タブレットを用いた検索、インタビューによる調べ学習を進めましたか。	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	94.0	6.0	0.0	24.8	38.1	26.3	8.7	2.1	
				±0.0		±0.0		±0.0	↑ 3.5	↓ 3.5	±0.0	↑ 0.9		↓ 0.4		↓ 0.5			
	児	知りたいことを調べるとき、本やタブレットを使ったり、他の人にたずねたりしましたか。		[状況]	● 国が推進する「個別最適化された学び」を実現するべく、書籍や辞書とタブレット端末を用途に応じて活用し、インタビューも重視した、主体的で対話的な学びを進めて3年目となり、自立して学ぶ力が定着してきています。														
保	家庭学習の中で、お子さんは、図書館の本や辞書、タブレットを活用できますか。	[取組]	● 家庭学習で個別に調べたことをもとに、学校での対話を通して深めていく「反転学習」を進めており、コロナ禍を契機に、夏季休業期間における自立的な学びに拡張してきました。次期学習指導要領を見据え、本格化していきます。																

